

農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 32 —



令和2年7月
編集・発行/
白子町農業委員会

『町の頑張る農業担い手集団』を皆さんに紹介します。

「白子たまねぎ」ブランドをさらに確実なものに…

白子町玉葱出荷組合

白子の玉葱は、古くから自家用野菜として作付けをしている程度でしたが、大正10年頃に、剃金の吉原松三郎さんら半農半漁していた4、5人が本格的に栽培に取り組んだのが始まりだとされています。昭和39年からマルチ栽培が行われ早出しが可能になったことから急速に取り組む戸数及び栽培面積が拡大され、町全体で212haとなり、翌年、国の産地指定を受けました。その後、昭和51年に農協の合併に伴い産地強化と有利販売を図るために、「白子町玉葱出荷組合」が設立されました。品質の統一と出荷労力の省力化を図るため玉葱機械選果機の利用がスタートされ、昭和53年から葉玉葱の出荷販売を開始し、現在では、生産量、販売金額において全国第1位の産地となっています。



玉葱出荷組合の現在の組合員数は104名。生産は生産者の高齢化などにより、栽培面積は約30haと大幅に減少してしまっていますが、平成12年から、「白子たまねぎ祭り」を開催するとともに、直接、生産者の圃場で玉葱の掘り取りを体験できる「たまねぎ狩り」が行われ、県内外から多くの消費者に支持されており、旬の季節には多くのテレビ局等に取材されるようになり、また、大手食品メーカーとのコラボ商品を、開発・販売するなど、「白子たまねぎ」としてのブランドが確立してきています。

また、組合では、現在、一部の圃場にて生分解マルチフィルム栽培を試験的に行うなど、更なる省力化栽培にも取り組んでいます。

現在、第6代組合長を務める 細谷 明正さんに話を伺いました。「伝統ある組織で、組合長として仕事ができることを誇りに思います。また、長い歴史を振り返ってみると、先輩方の取り組みには唯々頭が下がります。感謝と希望を胸に、これからも頑張っていきたい。今年、コロナウィルスの感染拡大のため大きな被害を受けましたが、これに負けることなく、組合員一丸となってしっかり前を向いて行きたい。」と語ってくれました。



○白子産芋焼酎『南白亀』について

南白亀の由来

平安の昔、白い亀が南方から白蛇を背にして海岸に渡来し、その白蛇は御神体として祀られた。

この伝説の南白亀様（白子神社）は、縁結びの神様として多くの人に参拝され、その前を流れる川を「南白亀川」と称した。



始まりは、2008年12月のある夜のこと。杯を傾けながらいつもどおり話に花が咲いていた。「町に広がる遊休農地を何とかしないと。」「何か作れないか?」「やせ地でも作れるとしたらサツマイモだ。」「焼酎の原料にしたら、どうだ。」「じゃあ、やってみるか!」と、農協青年部OBの5人が立ち上がった。

早速、男たちは行動に移す。県内にある酒造会社の中から君津市において芋焼酎を製造している酒蔵「和蔵酒造」を訪問し、芋の取引及び製造を可能とした。話は、さらに盛り上がる。「どうせ造るなら、原料として芋を出荷するだけでなく、白子オリジナルな焼酎を造ろう!」と、町独自の特産品としての芋焼酎を目指すこととなった。

春になり5月。荒れた畑を皆で整備し、サツマイモ(紅あずま)の栽培を開始。夏から秋へと順調に生育した芋を10月に収穫、出荷する。いよいよ芋焼酎の仕込みが始まった。次の大きな課題は、焼酎の名称やラベルデザインを決定すること。地元で、より愛される商品づくりに繋がる



よう、農業者だけでなく、町の飲食店、ホテルの経営者も加わり、商品化に向けての協議検討を何回も行った。そして、焼酎の名称を『南白亀』とすることに決定。名称の由来は、白子神社に伝わる白蛇伝説からくるもので、ラベルデザインは町職員による直筆を採用した。

半年間の熟成期間を経て、2010年4月28日、白子町産の芋焼酎として発売された。『南白亀』は、町の飲食店、ホテルにおいても提供され、販売開始後3か月で予定されていた2千本を販売し完売した。続いて、2013年12月から、甕に囲い1年間熟成させたプレミアム芋焼酎『甕囲い熟成 南白亀』を追加販売。甕ならではの呼吸作用等により熟成が進みよりまろやかで優しい味わいとなっており、こちらも好評を博す。

以降、毎年、秋に収穫されたサツマイモは、翌年春に『南白亀』、冬に『甕囲い熟成 南白亀』となり販売されており、地元特産品として地位を確立している。

現在は、男たちの熱い気持ちは、農協青年部の現役の若い男たちに引き継がれ、町の遊休農地を活用してサツマイモを栽培、出荷され、芋焼酎『南白亀』は製造販売されている。

地域を思う気持ちから生まれた 芋焼酎『南白亀』。“白子の大地の恵み”を、是非ご愛飲ください。

